

協働パイロット事業（H21）企画提案書

団体名： 特定非営利活動法人開発教育FUNCLUB

1. 事業の名称

住民の活気あふれる中山間地の創造

2. 事業方針（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください）

現在、中山間地では少子高齢化が進み、限界集落に入る集落も少なくありません。その中で、バスの本数の減少、公道の草刈りなどの行政サービスの低下等、住民は行政に「何とかしてほしい」という意識が高まっています。しかし、住民の意見を聞いてみると、確かに行政に頼ろうとする姿勢は見られるものの「自分たちで地域の活性化を図らなくてはならないのに、行政に頼りすぎることは自分たちの地域のためにならない。」という意識を持った住民も数多くいます。事実、地域行事への住民の主体的な参加や行事の盛り上がりはだんだん減少しているように思います。中山間地振興は住民のつながりを回復し、住民が自ら気づき、自分の地域を住民自身の手で活性化していく以外に方法はありません。その中で行政に主張すべきは主張していくという姿勢が現れてほしいものです。

私たちはPLA（Participatory Learning and Action）という発展途上国の村落開発に使われてきた手法を用い、住民が地域の良さに気づき、自ら団結して地域の活性化を進めていく学習の場を提供していきたいと思います。それには連合町内会をはじめとする地域組織と行政との連携が欠かせません。中山間地の町内会はなかなか市民団体を受け入れる体制はまだまだ整っていません。また、中山間地振興は行政の大きな事業の一つであり、行政が中山間地振興のコーディネートという全体的なとりまとめを行い、そこに私たちNPOが地域活性化のワークショップを開催するという形をとることが必要です。その中で私たち市民団体のノウハウが活かされます。

具体的には、年3回程度のワークショップを開催し、地域の課題を住民自身が気づき、地域の良さを発見し、その中で具体的な活動計画を住民自らが提案していく動きを生み出したい。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

行政には連合町内会と私たち市民団体との協働する場の提供をお願いしたい。具体的にはワークショップ開催のための実行委員会（行政・町内会・市民団体）の開設と運営。ワークショップ開催にあたっての町内会との協働体制の支援。住民が考えるプログラムの支援。私たち団体は具体的なワークショップの内容の提案と評価、フォローアップを担当する。

4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

地域住民のエンパワーメント。地域住民による地域活性化の企画と実施。たとえば、地域運動会1000人参加プロジェクト、地域加工場を舞台とした新しい住民参加のプログラム、地域を舞台としたウォークラリーを市民団体と共催、空き住宅の積極的な活用と新住民と地元住民との新たなコミュニティーづくりなど。

事前に私たちから具体策を提案するのではなく、あくまでも住民の内発的な地域を活性化したいという意識や連携からプログラムは生まれる。

5. 事業計画

○プロジェクトを行う組織作り

玉川地区の連合町内会と市民団体、行政の3者で実行委員会を組織する。

○玉川地区を舞台としたPLAのワークショップの開催（3回～4回程度）

このようなワークショップは、決まった人だけが参加する傾向がある。なるべく多様な立場の人々が参加できるように、若い年齢層・女性・高齢者などからの参加も募りたい。

・課題を見付けるためのワークショップ

玉川地区にはどのような課題があるのか課題に気づき、課題を共有する。

・玉川の良さを再発見するワークショップ

玉川地区の良さを写真などに撮ってきて、「うり」を再発見する。また、共有化を図る。

・解決策を探るワークショップ

「うり」をもとに、具体的な案を住民がたて、提案する。写真など撮ってきて、具体的に提案する。具体的にどこが実行するのか、新しい組織が必要なのかを明確にする。

・住民のプログラムの具体的な実行と評価

プログラムの実行と評価、フォローアップ

○PLAワークショップの経過やそれに対する意見の収集

・玉川分館に経過を掲示し、住民に見られるようにするとともに、それに対する意見を求める。

6. スケジュール

○PLAの学習会（5月、6月の2回）

・PLAについての学習を行う。

○行政・NPO・町内会との話し合い（6月・7月）

・実行委員会の設立準備

・プログラムの概要作り

○実行委員会の開設（7月・8月）

・ワークショップの内容検討

・プログラムの推進方法

○ワークショップの実施（10月・12月・2月）

・課題に気づき、共有化するためのワークショップ（10月）

・地域の良さを知るためのワークショップ（12月）

・具体的な案を検討するワークショップ（2月）

○ワークショップの内容の掲示と周知

・ワークショップの内容のPRを行うとともに、多くの意見を集約するための、パブリックコメントを募集する。

○フォローアップと評価（22年度）

・具体的な計画の進行状況を評価する

・フォローアップと方向の修正

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

○代表 肥田進

開発教育FUNCLUBの代表として、開発教育のワークショップを10年間にわたり、担当している。県国際交流協会主催のアースカレッジのファシリテーター、環境道場等のファシリテーターを経験する。玉川小学校の教頭で、地域の実情にも詳しい。

○理事 谷口康代

開発教育FUNCLUBの理事として、開発教育のワークショップを10年間にわたり、担当している。県国際交流協会主催のアースカレッジのファシリテーター、環境道場等のファシリテーターを経験する。清沢小学校の教諭で、玉川と同じ中山間地域の実情にも詳しい。

○事務局長 小長谷浩児

開発教育FUNCLUBの理事局長で、静岡カルチャーセンターの経営者としても、社会教育の現場に長年携わる。

○水島洋子

開発教育FUNCLUBの理事として、開発教育のワークショップを10年間にわたり、担当している。浜松市内の中学校教員で、浜松市内のブラジル人の適応指導に学校内で携わるほか、浜松市国際交流協会、JICAとの協働で共生社会育成のための教材開発を行う。

○玉置泰明

開発教育FUNCLUB監事。静岡県立大学教授。文化人類学者として、地域文化の創造や地域開発の問題について造詣が深い。

8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

開発教育FUNCLUBでは今まで発展途上国の貧困や人権侵害、経済的な搾取の現状が私たち先進国の生活そのものに原因があること、共生社会実現のために、人種・心情・文化・宗教・経済格差の違いを乗り越え、互いに理解する必要のあることをワークショップを通じて訴えてきました。主に静岡県国際交流協会との連携の中で活動してきました。現在は地域課題に取り組み、地域課題が世界の課題につながっていることを考え、地域課題の解決方法がグローバルな課題解決と同じ方法で対処しうることを研究しようとしています。

今回のプログラムは現地町内会と行政の参加が欠かせません。どちらかという、如何に町内会をはじめとする地域住民の動きを活性化させていくかの火付け役といえます。地域開発は今まで、様々な施設建築であったり、インフラ整備であったりすることが多く、それが地域を行政にたよる体質にしてきたことであろうかと思えます。最も大切なことは地域住民が如何に自分の地域の課題に気づき、住民同士協働することができるのか、彼らが如何に「街」との架け橋を造っていくのかにかかっています。私たちや行政はこの住民の後につくことが基本です。

問題は地域とのつながりをどう作るかということです。地域のキーパーソンとの接触は始めていますが、まだまだ、地域にはよそ者や変化を嫌う体質が強く残っています。ここを丁寧に理解してもらいながら進めないと計画は成功しません。そのためには行政が地域とNPOの架け橋をするというコーディネーターとしての役割は大変大きなものがあると思います。

協働パイロット事業 (H21) 見積書

団体名：特定非営利活動法人
開発教育 FUNCLUB

企画のタイトル：**住民の活気あふれる中山間地の創造**

項目	金額	説明
1. 学習会講師謝金	90,000	PLA 専門家による学習会(2回実施)
2. 学習会講師旅費	25,000	静岡～東京往復
3. 学習会会場費	10,000	
4. ワークショップ広報費	30,000	① 案内チラシ(A4) 200部 ② ポスター(A3) 30部
5. ワークショップ交通費	10,000	静岡市内～玉川往復×10回
6. 事務費	5,000	
小計 A	170,000	
消費税 B = A × 0.05	8,500	
合計 A + B	178,500	

◎実費弁償契約の希望の有無

有

無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途

企画提案の概要書

提案団体名	特定非営利活動法人開発教育FUNCLUB
企画案のタイトル	住民の活気あふれる中山間地の創造
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	<p>現在、中山間地では少子高齢化が進み、限界集落と呼ばれる集落も少なくありません。中山間地振興は住民のつながりを回復し、住民が自ら地域の良さに気づき、自分の地域を住民自身の手で活性化していく以外に方法はありません。</p> <p>私たちはPLA (Participatory Learning and Action) という発展途上国の村落開発に使われてきた手法を用い、ワークショップを開催します。そこから、住民が地域の良さに気づき、自ら団結して地域の活性化を進めていく力を支援します。そして、住民の意志による地域活性化を目指します。</p> <p>これには町内会をはじめとする地域組織と行政と市民団体との三者の協働が欠かせません。行政はコーディネートという役割を担い、私たちは気づきの場を提供し、住民の活動を支援します。そして、主役は地域住民です。住民の燃えるような地域おこしの火をつけることこそ、地域振興の中核を担うものだと考えます。</p>
金額	178,500円

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ html で表現できない複雑な表現方法はご利用できません。